



アジア9カ国の大学生が循環型社会の構築について学びます。

第9回「アジア学生交流環境フォーラム」をオンラインで開催

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、8月9日(月)から11日(水)の3日間、第9回「アジア学生交流環境フォーラム(Asian Students Environment Platform、以下、ASEP)」をオンラインにて開催します。

本フォーラムは、当財団と国連環境計画生物多様性事務局との合意に基づいて実施されており、今年で9回目を迎えます。

日本を含むアジア各国の大学生・大学院生が、英語を共通言語として、環境課題について学び、意見交換して提言をまとめる機会提供を通じて、国際的なステージで活躍する環境分野での人材を育成することを目的としています。今回を含めた参加学生数は、合計で681名にのぼります。

本年は3日間のオンライン開催とし、9カ国9大学の90名の学生がリモートで参加します。幹事校であるインドネシア大学がプログラムを準備し、学生は、講演受講後に多国籍の10チームに分かれてグループディスカッションを行います。その際には、各大学の教員がファシリテーターとして加わり、議論の深まりを支援します。また、早稲田大学との連携により設立されたAEON TOWAリサーチセンター(※)の学生も協力します。

最終日には、チーム毎に「循環型社会の構築」について提言を行い、今回初めての試みとして参加校の一般学生にも広くオンラインで発信します。

当財団は今後も、ひとつしかない地球を守るため、環境教育をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

(※)2020年、当財団と早稲田大学は、時代に即した環境課題の課題を目指すため、「AEON TOWAリサーチセンター」を設立しました。双方のこれまでの知見、学術研究を結合し、環境をはじめとした地域課題対応や人材育成など、新たな価値を創造することで持続可能な社会の実現を目指しています。

記

1. 期 間： 8月9日(月)～11日(水)(オンライン開催)
2. 主 催： 公益財団法人イオン環境財団
3. 幹 事 校： インドネシア大学(インドネシア)
4. 協 力： 早稲田大学、早稲田大学AEON TOWAリサーチセンター
5. 参 加 校： インドネシア大学(インドネシア)、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、早稲田大学(日本)、マラヤ大学(マレーシア)、高麗大学校(韓国)、フィリピン大学(フィリピン)、チュラロンコン大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)
6. 後 援： 外務省、環境省、毎日新聞社
7. 出席者(予定)：
開 講 式： インドネシア大学 総長 アリ・クンチョロ 様
国連環境計画・金融イニシアチブ特別顧問/WWFジャパン会長
公益財団法人イオン環境財団 評議員 末吉 竹二郎 様
閉 講 式： インドネシア大学 大学長官 アグスティン・クスマヤティ 様
早稲田大学 国際担当理事/社会科学総合学術院・教授 弦間 正彦 様
8. 主な日程： 8月 9日(月)開講式・基調講演・グループワーク
8月10日(火)講演・フィールドトリップ・グループワーク
8月11日(水)成果発表・閉講式

以上

ご参考

<2012年～2019年 ASEPの活動について>



第1回（2012年：日本）
テーマ：「文化から環境を考える」
中国、日本、韓国の3カ国60名が参加



第2回（2013年：韓国）
テーマ：「環境と人間」
中国、日本、韓国、ベトナムの4カ国79名が参加



第3回（2014年：中国）
テーマ：「水と人」
中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの5カ国80名が参加



第4回（2015年：ベトナム）
テーマ：「生物多様性と人」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名が参加



第5回（2016年：日本）
テーマ：「生物多様性と叡智（えいち）」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシアの7カ国84名が参加



第6回（2017年：日本）
テーマ：「生物多様性と再生」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイの8カ国64名が参加



第7回（2018年：マレーシア）
テーマ：「熱帯雨林からの贈りもの」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマーの9カ国72名が参加



第8回（2019年：カンボジア）
テーマ：「持続可能な平和のために」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマー、フィリピンの10カ国80名が参加

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオングループ全体での植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,223万本(2021年2月末時点)を超えています。

(イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>)

【インドネシアにおけるイオン環境財団の活動について】

【植樹事業】

■2011～2013年「ジャカルタ植樹」

インドネシアは近年の目覚ましい経済発展で、ジャカルタ市北部の沿岸部の開発が進み、マングローブなど防波林の木々の立ち枯れが各所で見られるようになっていました。ジャカルタ市北部の海辺近くの沼地にマングローブを植樹することにより、近隣にある住宅地や高速道路を洪水等の災害から守るとともに、緑あふれる沿岸部の再生を目指し、3ヵ年計画で植樹を実施しました。

3回の植樹で、日本からのボランティアと地元の方々5,068名が63,000本を植えました。



2011年 ジャカルタ植樹

■2018年～「ジャカルタ植樹」

前回の植樹地の隣接地に、新たに3ヵ年計画で植樹を実施しています。3年目となる2020年以降の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となり、現在に至ります。

2019年までに、日本からのボランティアと地元の方々2,000名が20,000本を植えました。

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）について】

1989年、ジャスコ株式会社代表取締役会長（当時）岡田卓也の提唱により設立され、2015年に公益財団法人に移行しました。企業の業績にかかわらず継続的に社会貢献活動をするため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%を拠出し、「次代を担う子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を柱として活動しています。

■イオンスカラシップ

2006年より実施しているこのプログラムは、アジア各国の大学生を対象に、給付型奨学金を通じて彼らの夢を実現するサポートする取り組みで、これまでにのべ7,426名が学び、インドネシア人学生は195名です。

その内、2013年からインドネシア国内において、インドネシア大学およびボゴール農科大学の学生に奨学金を付与しており、現在までにのべ69名の学生を支援しました。



■アジアユースリーダーズ

次代を担う日本と海外の学生が一堂に会し、開催国の環境や社会問題をテーマにディスカッションを行うプログラムです。異なるバックグラウンドを持つ学生たちが議論を重ね、問題に対する解決策だけでなく、価値の多様性にも理解を深めています。プログラムの最後には開催都市の政府に対し、学生たちから解決策を提案しています。2010年以降、このプログラムは毎年アジア各国で実施されており、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスから994名の学生が参加しています。2013年はインドネシアで開催されました。

インドネシアは2012年から毎年参加しており、これまでに合計157名の学生が参加しています。



2013年インドネシア開催時の成果発表

■ティーンエイジアンバサダー（TA）

1990年から始まった日本と海外の高校生の相互理解を目的とした高校生交流事業です。一週間に渡るプログラムでは、開催国の政府への表敬訪問や地元の学校での授業体験やホームステイなどを通じて互いの国の歴史や文化を理解し、友好親善を深めます。これまでに18カ国から2,421名の高校生が参加しました。

インドネシアでは、2002年、2012年、2015、2017年の4回開催され、インドネシアと日本の高校生136名が参加しました。



2012年日本TAインドネシア ユドヨノ大統領へ表敬訪問



2017年インドネシアTA来日時のホームステイ